



Title	教材研究 授業報告 : 全学生向け映像授業 (外国映画)
Author(s)	西, 昌樹
Citation	メディア・コミュニケーション研究, 62, 59-72
Issue Date	2012-05-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/49294
Type	bulletin (article)
File Information	MSC62_005.pdf



[Instructions for use](#)

教材研究 授業報告：全学生向け映像授業 (外国映画)

西 昌 樹

はじめに

筆者は長年映像関係の講義に携わってきた。講義題目はさまざまであるが、初期から1) 映像には様々なものがあること、2) 映像をどう分析すれば良いか及び映像のリテラシー、3) 映像の持つ強い喚起力がどのように利用されているかの考察などを論じてきた。受講学生があまりに話題作、メガヒット作品など広告に影響され、優れた映像作品はいかなるものかを深く考えず、ただ娯楽として、あるいは趣味としてしか消費せず、意識的に分析することを考えていない現状を顧みて、いかなる作品を見てどのように分析するかという基本的な教育を近年は意識的に試みている。

I 授業の内容

以下に2010年度の映像の授業（「見るべき映画監督と作品」、外国映画を扱っている）の使用教材のラインナップを掲げる（複数あるのは下線のついたものを中心にした）。また作品理解のため、一部の作品を除き、後の[]に選定理由や映画作品の簡略な説明をここでは付け加え、IIの1)の配布資料（実際に配布したものにはないが）の引用でも、それを踏襲した。

第1週 ガイダンス：さまざまな作品 『BLUE』[70分余りの全編青一色の究極の映像]など多数の作品を例示する

第2週 セルゲイ・エイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』[モンタージュ理論とカメラアングル]

第3週 ルイス・ブニュエル『アンダルシアの犬』[サイレント時代の前衛映画、イメージの連鎖]

ロバート・フラハティ『極北のナヌーク』『アラン』[ドキュメンタリーの初期傑作]

第4週 レニ・リーフェンシュタール『民族の祭典』『意志の勝利』[オリンピックとナチの党大会の記録映像、後者のプロパガンダの圧倒的影響力]

第5週 映像の紹介して分析法を指摘：スタンリー・キューブリック『ロリータ』、デヴィッド・

- ハミルトン『ビリティス』、セルジュ・ゲンスブール『スタン・ザ・フラッシャー』[映像のエロティスム、『ビリティス』は耽美的だが、他は少々倒錯的]
フェデリコ・フェリーニ『甘い生活』『8½』『悪魔の首飾り』(オムニバス映画『世にも怪奇な物語』の1編)[悪夢の映像化、『悪魔…』は特に顕著]
- 第6週 ゴダール『勝手にしやがれ』[カメラが街頭に出る、ヌーヴェルヴァーグ]
- 第7週 ロマン・ポランスキー『水の中のナイフ』[東欧の新しい映画、カメラアングルとフレームの新鮮さ]
- 第8週 アキ・カウリスマキ『レニングラード・カウボーイズ・ゴー・アメリカ』
『真夜中の虹』[フィンランドのユニークな監督、無表情な演技]
- 第9週 ジム・ジャームッシュ『ストレンジャー・ザン・パラダイス』[移民、貧しい社会、汚い都市を背景にした新感覚]
- 第10週 ビクトル・エリセ『ミツバチのささやき』[子供のスケール、対比で小ささを表現、と多重フレーム]
- 第11週 レオ・マッケリー『吾輩はカモである』[喜劇映画、ギャグの教科書]
- 第12週 リチャード・レスター『ヘルプ! 4人はアイドル』[新世代のギャグ、MTVの始まりは前作『ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ! (ハード・デイズ・ナイト)』、以後の影響大]
- 第13週 イングマル・ベルイマン『第七の封印』[北欧の中世、悪魔の造形]
- 第14週 まとめ、さまざまな映像を紹介してどこに注目し分析するかをもう一度復習する
『傷だらけのアイドル』『シド&ナンシー』『トレインスポッティング』、[以上は社会への反抗のテーマ]『トラック29』(ニコラス・ローグ)、『アメリカン・グラフィティ』『卒業』[以上は音楽と映画]『時計じかけのオレンジ』『ブレードランナー』[以上は汚い近未来のビジョン]、『エンジェリック・カンヴァセーション』(デレク・ジャーマン)[ほけた映像が暗示するイメージの点滅]、『Windows』『Water Wockets』(ピーター・グリーンナウェイ短編)[以上は映像の実験短編]
- 第15週 試験：モフセン・マフマルバフ『ドア』(短編、オムニバス映画『キシユ島の物語』の1編)[ドアを背負い砂丘を歩く男の映像、ドアの象徴するものは何か、これがイランの観光振興のための映画である]を見せてその映像を考察させる。

以上のプログラムであった。筆者の選択およびその理由には異論があるだろうが、多様な監督・作品を採り上げ、受講学生が今まで見たことのない映像作品を多く紹介し、彼らに知的刺激を与えることを試みたのである。この試みは成功したと思える。

II 学生への配布資料

また授業の終了に際し、受講学生のこれからの鑑賞の参考のため、一部のジャンルの注目作を挙げた以下の作品リストを作成し配布した。これは近年の話題作しか観ていない学生たちに、映像文化の多様性と秀れた作品を知ってもらいたいからである。選定方針は1) 映画史上の重要作品、2) そのジャンルでの代表となりうるもの、3) 舞台になる時代、歴史、社会を十全に描き、資料的価値をもつもの、4) 秀れた映像作品であり、後の作品に影響を与えたものなどである。授業と同様に映像の理解に役立つという目的で選んでおり、決して名作リストや個人の好みで選んだものではない(ただし評価軸は筆者の観点によっている)。以下で授業で配布したプリントを引用する。なお最初のリストでは制作年が入っているが、以後の諸リストでは制作年は概ね省略している。(前述の通り [] の部分は配布資料には存在しない)

1) 実際の配布資料

何を見たらよいか ほんの一例 一部カルト的 発見困難あり

宣伝や話題作に惑わされない リメイクの功罪

面白いものは無名作品にもある カルトとの評価は当てにならない

名作リストはある程度当てになるが…

信用できる批評家を見つけること：例) 小林信彦、山田宏一

ジャンルの例

ロックンロール

ピーター・ワトキンス『傷だらけのアイドル』(1967) [ロックを利用するプロパガンダを予言]

ブライアン・デ・パルマ『ファントム・オブ・パラダイス』(1974) [ロックオペラ]

フランク・ロダム『さらば青春の光』(1979) [モッズルック、ファッションと生き方]

ジュリアン・テンプル『ザ・グレート・ロックンロール・スウィンドル』(1980) [パンクロックバンドの記録、その反抗性]

アレックス・コックス『シド・アンド・ナンシー』(1986) [同上バンドの実録映画]

マイク・フィギス『ストーミー・マンディ』(1988) [英国フィルムノワール]

美術

デレク・ジャーマン『エンジェリック・カンヴァセーション』(1985) [既述]

ピーター・グリーナウェイ『ZOO』(1985) [色と構図の卓抜さ]

サラ・ムーン『ミシシッピー・ワン』(1991) [単色の映像美、写真家の映画]

SF

スタンリー・クレイマー『渚にて』(1959) [核戦争後の地球滅亡の古典]

キューブリック『博士の異常な愛情』(1964) [核兵器とブラックユーモア] 『時計じかけのオー

ンジ (1971) [既述]

ゴダール『アルファヴィル』(1965) [SF映画はCGなしで作れる]

タルコフスキー『惑星ソラリス』(1972)、『ストーカー』(1979) [同上]

リドリー・スコット『エイリアン』(1979)『ブレードランナー』(1982) [圧倒的イメージの提示]

ボン・ジュノ『グエムル——漢江の怪物』(2006) [CGを使用した怪獣映画の秀作]

犯罪・サスペンス

ジョン・ブアマン『殺しの分け前／ポイント・ブランク』(1967) [速いアクションとスローモーション]

サム・ペキンパー『わらの犬』(1971)『ゲッタウェイ』(1972) [暴力描写の美学]

アレックス・コックス『レポマン』(1984) [英国のインディペンデント系出自の監督]

ニール・ジョーダン『モナリザ』(1986)『クライング・ゲーム』(1992) [同上]

ジョン・ウー『男たちの挽歌』(1986) [日本映画の影響が見られる香港ノワール]

社会・歴史

マーティン・スコセッシ『タクシードライバー』(1976) [顕現される暴力衝動]

スティーヴン・フリアーズ『マイ・ビューティフル・ランドレット』(1985) [英国のパキスタン移民問題]

チェン・カイコー『子どもたちの王様』(1987) [文革中の下放と寒村の教育]

モフセン・マフマルバフ『サイクリスト』(1989) [イランのアフガニスタン難民]

『パンと植木鉢』(1996) [自らの反体制運動の過去を描く映画製作企画の過程で現れる事実と仮構のずれ]

ダニー・ボイル『トレインズアップティング』(1996) [スコットランドの若者の閉塞]

ケン・ローチ『ブレッド&ローズ』(2000) [米国の不法移民と不法就労]

パク・チャヌク『JSA』(2000) [朝鮮半島非武装地帯での犯罪]

恋愛・家族

フランソワ・トリュフォー『大人は判ってくれない』(1959)『アメリカの夜』(1973)

マイク・ニコルズ『卒業』(1967) [音楽と映像の連動]

ジョージ・ルーカス『アメリカン・グラフィティ』(1973) [ヒット曲の多数使用で時代を表す映画の始まり]

ベルイマン『ファニーとアレクサンデル』(1982) [自伝的家族映画]

エリック・ロメール『海辺のポーリーヌ』(1983)『友達の恋人』(1987) [フランスの日常描写]

ハウ・シャオシェン『ナイルの娘』(1987) [台北の若者群像]

ウォン・カーウアイ『欲望の翼』(1990)『恋する惑星』(1994) [スタイリッシュな映像]

チャン・イーモー『初恋のきた道』(1999) [中国の美しい自然と初恋]

クァク・ジェヨン『猟奇的な彼女』（2001）[韓国の乱暴な非常識ヒロイン像]
チョン・ジェウン『子猫をお願い』（2001）[韓国の商業高校卒の娘たちの群像]
キム・ギドク『絶対の愛』（2006）[整形して顔を変えた恋人たちのアイデンティティー]

2) 追加資料

さらに授業での使用作品リストとともに上記のプリントを補充して追加配布したものを以下に掲げる。

何を見たら良いか（補遺）

エリセ『エル・スール』、ヴェンダース『パリ・テキサス』『都会のアリス』、ルイ・マル『地下鉄のザジ』、アラン・レネ『去年マリエンバードで』、ロジェ・ヴァディム『血とバラ』、ジロ・ポンテコルヴォ『アルジェの戦い』、マイケル・ムーア『ボウリング・フォー・コロンバイン』、ラス・フォン・トリアー『ヨーロッパ』、サミュエル・フラー『ストリート・オブ・ノーリターン』、サム・ペキンパー『ワイルドバンチ』『戦争のはらわた』、ドン・シーゲル『突破口』『ダーティ・ハリー』、クリント・イーストウッド『許されざる者』、レオン・ポーチャー『風の輝く朝に』、フルーツ・チャン『メイド・イン・ホンコン』、ウォルター・サレス『モーターサイクル・ダイアリーズ』、ロバート・アルトマン『マッシュ』

またその他気に入った監督の他の作品も試してください

以上であるが、なお今までのリストにおいて、下線がついているのは、特に推薦するものであり、枠で囲んであるのは筆者が受講学生にとって必見とみなした作品である。

もとより外国映画の見るべき作品を論じるのに、1学期の15週でできるはずがない。しかし彼らに映像文化とは、いかに広く大きなものであるかを感じさせる指針になれば良いと考え、このような作品リストを作り上げた。完全なものを目的にせず、今日の学生に対して、繰り返すが何らかの知的刺激を与える機会を作るためであった。

3) 作成中の資料

ところで2011年度は「日本映画の見るべき監督・作品」と題して講義を行なっている。約250人が履修登録し、大講堂で講義した前年度の外国映画の授業ほどではないが、約130人が登録している。その学生たちのために作成した、見る価値のある外国映画のリストが以下である。未完成のまま最後の授業で配布したものであるが、参考までに、あえて引用する。なお、映画作品が全ての観客に感銘を与えるわけではないのは、他の芸術分野と同様であり、あくまで一般学生が観て、嫌悪感を抱いたり拒否反応を生じることが少ない作品を選んだつもりであるが、

一部の作品はショックを与えるかも知れない（なおカッコ内は裏ヴァージョンとも言うべきもう一つの選択肢である）。外国映画の部分のみ引用する（日本映画は参考資料として、この論考末尾に掲載した）。

何を観たら良いか カッコ内は裏ヴァージョン（自分で調べて観てみること）

巨匠

フェデリコ・フェリーニ『道』『8½』（『甘い生活』）

イングマール・ベルイマン『野いちご』『第七の封印』『ファニーとアレクサンデル』（『叫びとささやき』『沈黙』）

ロベルト・ロッセリーニ『無防備都市』（『イタリア旅行』）

ルキノ・ヴィスコンティ『ベニスに死す』（『地獄に堕ちた勇者ども』）

ジャン＝リュック・ゴダール『勝手にしやがれ』『女と男のいる舗道』（『軽蔑』『ウィークエンド』『アルファヴィル』）

ジャン・ルノワール『大いなる幻影』『ピクニック』（『草の上の昼食』）

フランス

マルセル・カルネ『天井桟敷の人々』

ジュリアン・デュヴィヴィエ『望郷』（『舞踏会の手帖』）

ジャン・コクトー『オルフェ』『美女と野獣』

ルネ・クレマン『禁じられた遊び』

アラン・レネ『去年マリエンバードで』（『二十四時間の情事』）

エリック・ロメール『海辺のポーリーヌ』（『友達の恋人』）

ルイ・マル『恋人たち』（『地下鉄のザジ』）

クロード・シャブロール『主婦マリーがしたこと』

ジャン＝ピエール・メルビル『影の軍隊』『仁義』（『モラン神父』）

フランソワ・トリュフォー『大人は判ってくれない』『アメリカの夜』

ロベール・アンリコ『冒険者たち』（『追想』）

クロード・ルルーシュ『男と女』（『流れ者』）

マチュー・カソヴィッツ『憎しみ』

イタリア

ヴィットリオ・デ・シーカ『自転車泥棒』（『昨日・今日・明日』）

ピエトロ・ジェルミ『鉄道員』『刑事』（『イタリア式離婚狂想曲』『誘惑されて棄てられて』）

ベルナルド・ベルトルッチ『暗殺の森』（『革命前夜』）

ピエール・パオロ・パゾリーニ『アポロンの地獄』（『ソドムの市』）

マルコ・ベロッキオ『肉体の悪魔』

リリアナ・カヴァーニ 『愛の嵐』

イギリス

カレル・ライス 『土曜の夜と日曜の朝』

トニー・リチャードソン 『長距離ランナーの孤独』 『密の味』

リンゼイ・アンダーソン 『If もしも…』

リチャード・レスター 『HELP!』 『ナック』

マイケル・サーン 『ジョアンナ』

ピーター・ワトキンズ 『傷だらけのアイドル』

フランク・ロダム 『さらば青春の光』

ジュリアン・テンブル 『ザ・グレート・ロックンロール・スウィンドル』

アレク・ジャーマン 『エンジェリック・カンヴァセーション』

ピーター・グリーナウエイ 『ZOO』

サラ・ムーン 『ミシシッピー・ワン』

ケン・ローチ 『ブレッド&ローズ』（『カルラの歌』）

アレックス・コックス 『シド・アンド・ナンシー』（『レポマン』）

スティーヴン・フリアーズ 『マイ・ビューティフル・ランドレット』

ニール・ジョーダン 『モナリザ』 『クライミング・ゲーム』

マイク・フィギス 『ストーミー・マンディ』

ダニー・ボイル 『トレインズ・スポンディング』

ドイツ

フィリッツ・ラング 『ドクトル・マブゼ』 『メトロポリス』

G. W. パプスト 『パンドラの箱』（ルイーズ・ブルックス主演）

レニ・リーフェンシュタール 『民族の祭典』 『意志の勝利』

ヴィム・ヴェンダース 『都会のアリス』 『アメリカの友人』（『都市とモードのビデオノート』）

ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー 『マリア・ブラウンの結婚』（『リリー・マルレーン』）

トム・ティクヴァ 『ラン・ローラ・ラン』

スペイン・ポルトガル

ルイス・ブニューエル 『小間使いの日記』 『昼顔』

ビクトル・エリセ 『ミツバチのささやき』

マノエル・ド・オリヴェイラ 『アブラハム溪谷』（『階段通りの人々』）

ソ連・ロシア・東欧・北欧

セルゲイ・エイゼンシュテイン 『戦艦ポチョムキン』 『イワン雷帝』

アンドレイ・タルコフスキー 『惑星ソラリス』 『ストーカー』（『ノスタルジア』）

アンジェイ・ワイダ 『灰とダイヤモンド』

イエジー・カワレロウィッチ『夜行列車』

アンジェイ・ムンク『パサジュエルカ』

ロマン・ポランスキー『水の中のナイフ』（『ローズマリーの赤ちゃん』）

ラース・フォン・トリアー『ヨーロッパ』

アキ・カウリスマキ『愛しのタチアナ』『レニングラード・カウボーイズ・ゴー・アメリカ』（『マッチ工場の少女』『白い花びら』…20世紀末のサイレント映画）

アメリカ

クラレンス・ブラウン『肉体と悪魔』（グレッタ・ガルボ主演）

スタンリー・クレイマー『渚にて』

スタンリー・キューブリック『博士の異常な愛情』『時計じかけのオレンジ』

リドリー・スコット『エイリアン』『ブレードランナー』

ブライアン・デ・パルマ『キャリア』『ファントム・オブ・パラダイス』

ジョン・ブアマン『殺しの分け前／ポイント・ブランク』

サム・ペキンパー『ワイルドバンチ』『わらの犬』『ゲッタウェイ』（『ガルシアの首』）

マーティン・スコセッシ『タクシードライバー』

マイク・ニコルズ『卒業』

ジョージ・ルーカス『アメリカン・グラフィティ』

クウェンティン・タランティーノ『レザボア・ドッグズ』『パルプ・フィクション』

イラン

アボルファズル・ジャリリ『少年と砂漠のカフェ』（『ダンス・オブ・ダスト』…名を呼ぶ声一つ以外、一切台詞を排した映画）

アッバス・キアロスタミ『友だちのうちはどこ？』『クローズ・アップ』『そして人生はつづく』

モフセン・マフマルバフ『サイクリスト』『パンと植木鉢』

中国・香港・台湾・韓国

チャン・イーモー『赤いコーリャン』『初恋のきた道』

チェン・カイコー『子どもたちの王様』『霸王別姫』

ジャ・ジャンクー『プラットフォーム』『長江哀歌』

ジョン・ウー『男たちの挽歌』

ウォン・カーウアイ『欲望の翼』『恋する惑星』（『花様年華』…フォトジェニック）

フルーツ・チャン『メイド・イン・ホンコン』『リトル・チュン』

ホウ・シャオシェン『悲情城市』（『ナイルの娘』）

エドワード・ヤン『牯嶺街少年殺人事件』、『ヤンヤン 夏の思い出』

イム・グォンテク『風の丘を越えて』

パク・チャヌク『JSA』

クァク・ジェヨン 『猟奇的な彼女』
チョン・ジェウン 『子猫をお願い』
キム・ギドク 『絶対の愛』（『弓』）
ボン・ジュノ 『グエムル—— 漢江の怪物』

上記リストは未完成で、国によっては十分な数の作品が挙がっていない不十分なものと言える。以上でこの授業で採り上げた、あるいは採り上げたい作品については理解されたであろう。このようなリストは、大学や大学院、講義や演習において、映像文化の授業を企画する時に、参考になるのではないだろうか。これらにつけ加えるのは、MTV の有名な制作者の作品（ミッシェル・ゴンドリーやスパイク・ジョーンズ、クリス・カニンガムなどであり、後に映画を監督した者も多い）と CM 映像であろう。全学授業（旧教養課程の授業、現在は大学卒業まで履修できる）の映像授業のための作品選定にあたっては、以上のリストが参考になれば幸いである。また筆者は広く映像の授業を担当する方に何らかの参考になることを願っている。

【参考資料】 2011年度の日本映画に関する授業について

2011年度に全学生（日本人と留学生）向けに開講した「日本映画の見るべき監督・作品」と題した授業を現在行なっている。外国映画の授業プログラムと比較するため、参考までに以下にこの日本映画の授業プログラムの立案と実施された授業内容を挙げる。

まず当初の計画である。

日本映画の見るべき映画監督・作品—— 授業計画

- 第1週 ガイダンス 小津安二郎『東京物語』成瀬巳喜男『浮雲』
- 第2週 木下恵介『カルメン故郷に帰る』『二十四の瞳』『喜びも悲しみも幾年月』
- 第3週 市川崑『おとうと』『東京オリンピック』『細雪』
- 第4週 新藤兼人『裸の島』『裸の十九才』内田吐夢『一乗寺の決闘』『飢餓海峡』
- 第5週 今村昌平『にあんちゃん』『豚と軍艦』『赤い殺意』『復讐するは我にあり』
- 第6週 大島渚『愛と希望の街』『日本の夜と霧』『日本春歌考』『新宿泥棒日記』
- 第7週 吉田喜重『秋津温泉』『エロス+虐殺』
- 第8週 篠田正浩『乾いた花』『心中天網島』『はなれ瞽女おりん』
- 第9週 東陽一『サード』『絵の中のぼくの村』黒木和雄『とべない沈黙』『竜馬暗殺』『祭りの準備』
- 第10週 鈴木清順『けんかえれじい』『刺青一代』『野獣の青春』『東京流れ者』
- 第11週 藤田敏八『八月の濡れた砂』『妹』『もっとしなやかにもっとしたたかに』
- 第12週 森田芳光『家族ゲーム』『ときめきに死す』

第13週 原一男『極私的エロス 恋歌1974』『ゆきゆきて神軍』

第14週 是枝裕和『幻の光』『誰も知らない』『空気人形』

第15週 河瀬直美『萌の朱雀』森達也『A』『A2』

これは概ね日本映画史の時系列に合致していると言えよう。しかし当然のことながら、この内容を90分15週の授業で実施するのは不可能である。勿論映画作品についての知識をただ与えるだけであれば可能だが、いかに秀れた作品か、またその映像の特徴はという分析を充分学生に理解させるには採り上げる作品が少々多すぎる。また一回の授業でたくさんの作品を採り上げ、次々と映像を切り替えて、映像のシャワーを浴びせかけても、充分理解できずにただ圧倒されるだけである。結局実際の授業では監督を減らし、作品を絞り、さまざまな観点から作品と映像を分析することにした。以下が実施されたものである。

[実際の講義記録]

日本映画の見るべき映画監督・作品

第1週 ガイダンス 小津安二郎『東京物語』

第2週 小津安二郎『東京物語』(続き)

第3週 成瀬巳喜男『浮雲』

第4週 今村昌平『豚と軍艦』

第5週 河瀬直美『萌の朱雀』

第6週 映像分析の実践(外国映画を題材、日本映画ではすぐ分析内容を他の作品を論じる時コピーするので)

第7週 東陽一『絵の中のぼくの村』

第8週 黒木和雄『祭りの準備』

第9週 是枝裕和『幻の光』

第10週 崔洋一『月はどっちに出ている』

第11週 森田芳光『家族ゲーム』

第12週 鈴木清順『刺青一代』『東京流れ者』

第13週 原一男『ゆきゆきて神軍』

第14週 森達也『A』『A2』

第15週 富沢一道『救済詩』の一部を見せて試験

この授業プログラムは、留学生向けの日本映画に関する授業「日本映画に見る日本の文化と社会」(「留学生の日本理解のための映像教材」、北海道大学大学院『メディア・コミュニケーション』)

ン研究』59、123-135、2010参照）での授業プログラムと重なる部分が多い。何故なら、日本の学生は留学生以上に今のヒット作以外の映画を観ていないからである。しかしできるだけ多数の作品を採り上げた留学生向けの授業に比べ、一つの作品を詳細に論じることができたことは、非常に重要であろう。

なお外国映画と同様に、学期末に配布した学生に勧める他の作品リストが以下である。

日本映画

市川崑『おとうと』『東京オリンピック』『細雪』

市川準『東京兄弟』

今村昌平『にあんちゃん』『赤い殺意』『復讐するは我にあり』『楢山節考』

内田吐夢『飢餓海峡』『宮本武蔵 一乗寺の決斗』

大島渚『愛と希望の街』『青春残酷物語』『日本の夜と霧』『日本春歌考』『新宿泥棒日記』

大友克洋『AKIRA』

岡本喜八『独立愚連隊西へ』『肉弾』

押井守『機動警察パトレイバー 2 the Movie』、『東京スカナー』(監修)

川島雄三『幕末太陽伝』

木下恵介『カルメン故郷に帰る』『二十四の瞳』『喜びも悲しみも幾年月』

黒木和雄『とべない沈黙』『竜馬暗殺』

黒澤明『羅生門』『七人の侍』

是枝裕和『誰も知らない』『空気人形』

斎藤耕一『津軽じょんがら節』

阪本順治『顔』

篠田正浩『乾いた花』『心中天網島』『はなれ瞽女おりん』

新藤兼人『裸の島』『裸の十九才』

鈴木清順『けんかえれじい』『野獣の青春』『殺しの烙印』

相米慎二『セーラー服と機関銃』『台風クラブ』

土屋豊『新しい神様』

中島哲也『下妻物語』

中平康『月曜日のユカ』

西川美和『ゆれる』

原一男『極私的エロス恋歌1974』『全身小説家』

東陽一『サード』

藤田敏八『八月の濡れた砂』『妹』『もっとしなやかにもっとしたたかに』

本田猪四郎『ゴジラ』(第一作)

増村保造『刺青』『痴人の愛』

宮崎駿『ルパン三世カリオストロの城』『風の谷のナウシカ』

森崎東『生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ党宣言』

森田芳光『ときめきに死す』

山下敦弘『リングリングダリング』

山田洋次『吹けば飛ぶよな男だが』『男はつらいよ 望郷篇』

吉田喜重『秋津温泉』『エロス+虐殺』

若松孝二『我に撃つ用意あり』

和田誠『麻雀放浪記』

裕次郎映画：『狂った果実』（中平康）『憎いあんちくしょう』（蔵原惟繕）『赤いハンカチ』（舛田利雄）

このリストも不十分であり、リストに入っていない重要な監督が多いと思うが、不完全なものであっても、この種の授業の企画に何らかの示唆を与えられたら幸いである。

(2011年11月4日受理)

《SUMMARY》

Program for Studies of World Cinema Directors and Their Films

Masaki NISHI

To provide an insight into cinema directors and their films, I give a class “World Cinema Directors and Their Films” for university students. In this class, students watch a variety of films and then examine various aspects and images as presented in these films. I give the last version of this program, using films based on the weekly themes listed below.

Course Description

- Week 1 General Introduction: Derek Jarman (Blue) and many films
- Week 2 Sergei Eisenstein: The Battleship Potemkin
- Week 3 Luis Buñuel: An Andalusian Dog, Robert Flaherty: Nanook of the North, Man of Aran
- Week 4 Leni Riefenstahl: Festival of Nations, Triumph of the Will
- Week 5 How to analyze: Stanley Kubrick (Lolita), David Hamilton (Bilitis), Serge Gainsbourg (Stan the Flasher) etc.
Federico Fellini: La Dolce Vita, 8 ½, Toby Dammit (in Spirits of the Dead)
- Week 6 Jean-Luc Godard: Breathless
- Week 7 Roman Polanski: Knife in the Water
- Week 8 Jim Jarmush: Stranger Than Paradise
- Week 9 Aki Kaurismäki: Leningrad Cowboys Go America, Ariel
- Week 10 Victor Erice: The Spirit of the Beehive
- Week 11 Leo McCarey: Duck Soup
- Week 12 Richard Lester: Help!
- Week 13 Ingmar Bergman: The Seventh Seal
- Week 14 How to analyze 2: Many films (Privilege, Sid & Nancy, Track 29, Trainspotting, American Graffiti, The Graduate, The Clockwork Orange, Blade Runner, Derek Jarman: The Angelic Conversation, Peter Greenaway: Windows, Water Wrackets)

Week 15 Examination Mohsen Makhmalbaf: The Door (in Tales of Kish)